

電源立地地域温排水対策事業天然資源調査

(抄録)

蛸 名 政 仁

天然資源調査

1. 漁獲実態調査

- (1) 白糠地区においては小型定置網、刺網、一本釣、イカ釣、棒受網の5漁業種類が行われている。
- (2) 年間の各漁業種別と漁獲割合は、イカ釣が1,609トン(60%)で以下、定置網844トン(31%)、棒受網190トン(7.1%)、刺網27トン(0.8%)、一本釣21トン(0.8%)であった。また、漁獲金額では、イカ釣5.5億円(61%)で以下、定置網2.4億円(27%)、棒受網0.4億円(5.5%)、刺網0.3億円(3.7%)、一本釣0.3億円(3.3%)であった。
- (3) 年間の魚種別の漁獲量と漁獲金額では、イカ釣によるスルメイカが1,609トンで5.5億円、定置網によるサケが747トンで1.8億円と全体の漁業生産に対して大きな割合を占めており、スルメイカとサケに依存した漁業であった。
- (4) サケ、スルメイカ、ヤリイカ、サクラマス、カレイ類の漁獲量を昨年と比較すると、ヤリイカでは増加したものの他は減少した。また活魚の取り扱いは、インガレイで重量、金額ともに大幅に減少したもののその他の魚種は昨年並であった。

2. 生態調査 対象種：マコガレイ

目的 マコガレイの生態的知見を収集する。

マコガレイの雌雄別生殖腺指数($(\text{生殖腺重量} \div \text{内蔵除去重量}) \times 100$)の経月変化を調査したところ、産卵期は4から5月の春期であると推定された。

マコガレイの全長(TL)と体重(BW)の関係を調査したところ、 $BW = 0.0083 T L^{3.1567}$ の関係が得られた。